

待望の Legacy1 (図1) が、ようやく発売となった。

「Legacy」を辞書で調べてみると、(ジーニアス英和辞典)

1. 遺言によって譲られる遺産 (相続財産は heritage である)
2. 受け継がれたもの。名残。遺物。
3. 血縁会員 (血縁者が所属する組織や大学に入った者)

とある。

まさしく、多くのインプラントを開発してきたことで知られる Dr.G.Niznick が、自身が開発したインプラントの gene (遺伝子) を引き継ぎ、よりブラッシュアップさせたインプラントシステムを世に送り込んできたのである。

旧システムに対してプラットフォームに変化はなく、ドリルシステムを含む全ての遺産をそのまま Legacy1 に引き継ぐことができる。

以下、一番近似している旧システムとの比較で、改良された箇所を個々に述べていきたい。

旧システムにおける Triple Lead Thread (3 条ねじ) は、3 倍のスピードで素早く埋入できると同時に、大きな初期固定を得ることができる謳い文句であるが、これが諸刃の剣となることがある。埋入トルクが大きすぎて埋入途中でスタックしてしまい進むことも戻ることも出来なくなってしまうことが稀にあった。この点については、Legacy では Double Lead Thread (2 条ねじ) となり、Single Lead Thread (1 条ねじ) に比べて埋入速度と初期固定の優位性を保ちながら、Triple Lead Thread のような難しさを改善している。

また、旧システムの売りであった、アバットメントとフィクスチャーの Friction-Fit (クサビ嵌合) を、自身であっさりと捨ててしまった。

なるほど Friction-Fit により、アバットメントの緩みを防ぐという目的は達することが出来てきたものの、長期予後を見たときに、Friction-Fit がなくても問題ないということが分かってきたようだ。さらに、着脱操作での煩わしさ (インプラントからアバットメントを外す時に、その都度リムーバルツールを用いなくてはならなかった) から解放される事になる。

さらに、この Friction-Fit によって絶えずフィクスチャーネック部に応力がかかり、埋入方向や補綴設計によってはネック部の破折を引き

起こしかねない。

旧システムとの大きな違いはこの 2 点であるが、その他にも改良された点がいくつかある。彼が過去に開発してきたインプラントの名称の由来にもなり、象徴であったフィクスチャー先端部分の Vent (孔) が無くなった。セルフタップの効率を上げ、脱離にも抵抗するために考案された Vent であるが、もはやそのような Vent は過去の遺物 (遺産ではない) でしかないようだ。

フィクスチャー先端部分の変更に対し、ネック部分でも Mini Thread が施され、カラー部分にあった 1mm 幅の機械加工表面部分がなくなった。このことにより経年的なネック部分での骨吸収を抑えることが期待できる。

あともう一つの改良点は性能面ではなく「コスト」である。

メーカーである ImplantDirect 社の開発コンセプトにオールインワンパッケージがある。必要なコンポーネントをフィクスチャーのパッケージに収めてコストパフォーマンスを上げようというものだ。

Legacy1 では、フィクスチャーとカバースクリュー・エクステンダー (カバースクリューとフィクスチャーの間に介在させる)・クリップ式キャリア (フィクスチャーマウント) の 4 つが 1 パッケージに収められており、価格も従来の 3 分の 2 以下に抑えられている。このパッケージのコンセプトは、同社製インプラント全般に共通し、システムによっては、より密度の高いパッケージとなっているので、他システム (Legacy1 以外) の発売が楽しみである。

■ 症例

下顎大白歯部で槽間中隔が発達している場合、近心或いは遠心にずれてしまうことはよく経験することであるが、これを防ぐために苦労される先生方が多いと思う。(図2)

Piezosurgery® で図3のようなチップを用いると、ピンポイントで埋入窩を形成することが出来るので、これを防ぐための有力な手立てとなる。その他に、近心根部と遠心根部を通常通りのドリリングを行ったあと、それらを繋ぐようにドリリングを行い、中隔部を削り取ってしまうと、中央部へのドリリングが容易に可能となる。参考にして頂ければ幸いである。(図4、5)



図1. このたび発売となった Legacy1 インプラント。



図2. 槽間中隔の影響で遠心にずれて埋入されたケース。



図3. Piezosurgery®touch 本体と専用チップ「IM1-SP」。

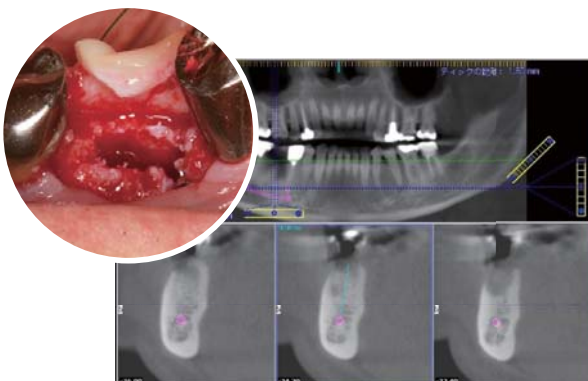


図4. 槽間中隔が発達したケース。3D 画像上で綿密に埋入を計画。

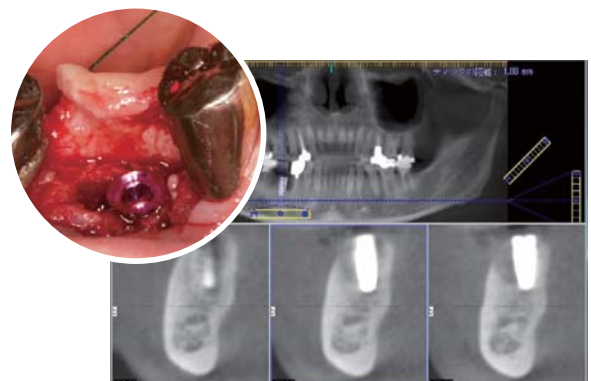


図5. 槽間中隔を削合し、近遠心的にもバランスの良い部位に埋入を行えた。